

目的別・校内連携の先進事例12

目的1: 教員の意識をアップ

CASE 1 [生徒向けの進路通信を教員にも配布]

模試の分析結果を掲載。 教科指導のフォローに生かす

進学希望者の多い同校では、生徒の受験への興味は高い。そこで進路指導部の山内由紀朗先生は勉強法や、模試の結果をまとめた生徒向けの「進路通信」を教員にも配っている。「たとえば英語の発音はイイが、文法はダメといった分析を掲載します。教員にとって生徒を知る貴重な資料。授業で苦手分野を取り上げるなど、的を射た指導に役立てば（山内先生）」

北海道北見柏陽高校

<http://www.kitamihakuyou.hokkaido-c.ed.jp/>
生徒数 / 716人(男子323人、女子393人) 普通科 18学級
進路状況(2005年度) / 大短進学52.1%、専各進学28.8%、
就職11.9%、その他7.2%

『進路通信』(抜粋)



制作は3～4時間ほど。模試結果と同時に配付するためスピードが大事
今年だけで8回発行。教員にも認知され、定着した教科ごとに執筆を依頼して、勉強法を掲載することも

CASE 2 [外部講師の活用]

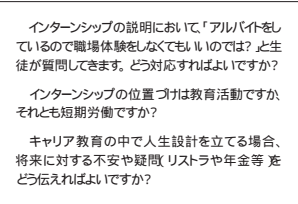
教員向け研修に専門家招聘。 誰もが同じ知識を取得する

同校は社会保険労務士など外部講師を招いた研修会を実施している。「メリットは、専門家の生の声を聞ける、同じ知識をもとに教員同士で話ができる、準備の手間が少ない、など様々です」と言う教頭の反町聡之先生。事前に質問を収集し、それに応える形式も好評。「個別指導の悩みなど、現状に即した質問が多く、全員が興味を持って聞けています（反町先生）」

神奈川県立平塚工科大学

<http://www.hiratsukakoka-th.pen.kanagawa.ed.jp/>
生徒数 / 685人(男子672人、女子13人) 工業科 19学級
進路状況(2005年度) / 大短進学22.0%、専各進学17.0%、
就職54.0%、その他7.0%

事前に集められた質問例



研修会はキャリア教育に対する意識統一と理解の深化を目的に昨年開始
1、2回目は全教員対象。3回目は希望者のみ参加。年度初めに行事に組み込むことが参加者を増やす秘訣

CASE 3 [分担リストの作成]

進路行事の分担を制度化し 運営ノウハウも全教員共有

進路行事の運営は学習指導部に任せられ、年度ごとに内容に差があった。田中香奈子先生はこの現状を改善すべく、各学年の行事計画と運営マニュアルを2年がかりで完成。05年度から全教員が行事を分担する体制に移行した。準備が遅れがちな時は声をかけるなど、随時フォローすることで、問題なく実施できている。「分掌の垣根を越えた成果は大きい」と田中先生。

東京・私立駒澤大学高校

<http://www.komazawa.net/>
生徒数 / 1618人(男子931人、女子687人) 普通科 37学級
進路状況(2005年度) / 大短進学86.4%、専各進学6.0%、
その他7.6%

共有の行事運営計画



行事担当者と学習指導部が共有する、準備や運営の段取りを記したマニュアル(左)
「進路に関わる業務を平等に負担することで、各教員の進路指導への意識が強まる効果もあります（田中先生）」

CASE 4 [校内LANの活用]

進路行事の意見交流など、部外とのやりとりがスムーズ

15年程前から校内LANが導入され、教職員がほぼ一人一台のPCを保有する同校。行事の目標設定などについて部外と意見交換を行ったり、部外の教員にも進路に関わる資料や情報を提供するなど、進路指導部でもこの環境を活用している。「LANによる情報交換のしやすさが、分掌を超えた業務分担を促進しています」(進路指導部長・河村範彦先生)

京都府立亀岡高校

<http://www1.kyoto-be.ne.jp/kameoka-hs/>
生徒数 / 1095人(男子486人、女子609人) 普通科 27学級、数理科学科 1学級
進路状況(2005年度) / 大短進学47.5%、専各進学25.5%、就職9.1%、その他17.9%

校内LANのトップ画面



行事の年間計画など、進路指導部の資料がストックされ、自由に閲覧できる
校内で行われる会議の場所と時間の連絡や、特別教室の予約などは簡易メールでやりとりしている

CASE 5 [数値目標の設定]

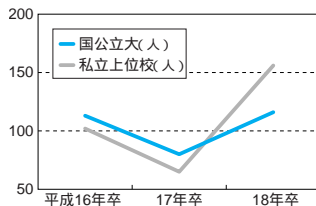
国公立に加え私立上位校の合格目標を設定し指導に生かす

毎年大学進学希望者が9割を超える同校だが、「国公立大100名合格」以外は特別な指導方針がなかった。そこで3年前「私立上位校100名合格」を新たな目標として提案した出口勝則先生。「毎年新年度に全教員に対して周知。これがきっかけで併願校選びや目標校設定への興味が高まり、以前よきめ細かい個別指導が行われるようになりました」(出口先生)

静岡・私立浜松日体高校

<http://www.h-nittai.ac.jp/>
生徒数 / 925人(男子617人、女子308人) 普通科 23学級
進路状況(2005年度) / 大短進学73.1%、専各進学5.2%、就職0.4%、その他21.3%

合格者数の推移



3年前からMARCH 明治・立教・中央 100人以上、早慶上智20人以上を設定
私大の目標を掲げる以前、国公立大学の合格目標については指導が徹底せず、目標に届かないこともよくあった

目的2: 教員全体のスキルアップ

CASE 6 [勉強のための本棚を設置]

幅広いジャンルで100冊以上。「先生力」アップにつなげる

福井県教育委員会の学力向上支援事業の一環として、「生徒の信頼を集める力」と定義する「先生力」や「授業力」の向上を目的とした文庫を職員室に設置。コーチングやリーダーシップの理論書、プレゼンテーションのスキル本など分野は幅広い。「他の先生の提供もあり、蔵書は100冊以上。総合的な指導力が求められる今必要な知識を得る一助になれば」と山口明彦先生。

福井県立武生東高校

<http://www.takefuhigashi-h.ed.jp/>
生徒数 / 686人(男子253人、女子433人) 普通科13学級、国際科 6学級
進路状況(2005年度) / 大短進学79.0%、専各進学14.8%、その他6.2%



学力支援事業の一環である旨を本棚に貼ってPR
貸出記録は付けず、自由に閲覧できる。AO入試の資料として生徒が使ったこともある
「若い先生からは『参考になる』との声も」(山口先生)

CASE 7 [「総合」を分担し全教科で実施]

教科らしさを生かし 「総合」の指導を平等に担う

同校では全教員が自分の担当する教科の時間から、一定の時間を「総合的な学習」に振り替えて授業を行う。「誰かが新しい授業計画を立てる手間がなく、平等に負担を分けあえるため、導入はスムーズでした」と語る教務部の井上達朗先生。たとえば英語では米国の人権問題を取り上げるなど、全員が専門とする教科の特色を生かして、キャリア教育に携われるのもメリット。

国立・京都教育大学附属高校

http://www.kyokyo-u.ac.jp/koukou/
生徒数 / 601人(男子257人、女子344人) 普通科 15学級
進路状況 / 大短進学56.7%、専各進学0.5%、
その他42.8%

「総合的な学習」の事例

英語	キング牧師の演説を読む
日本史	「けがれ」と「差別」の関係
生物	DNAと生命の神秘
数学	金利の計算方法
物理	物理学者のたどった道

「総合」のテーマは「進路」「人権」「異文化」いずれかを学べる授業計画を各教員が年度初めに教務部に提出する。教務部の担当者が提出された授業計画に問題ないか確認し、出欠状況などを管理する。

CASE 8 [全教員対象研修を実施]

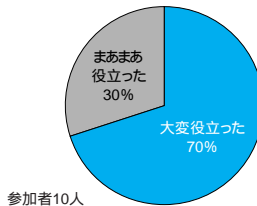
経験の少ない若手を対象に 役立つ情報を凝縮して提供

若手教員が多い同校では、教科の基本的な指導力アップが当面の目標で、キャリア教育的な実践まで手が回らない感があった。そこで進路指導主事の谷野公彦先生は、全教員を対象に、ハローワーク職員など、講師を招いたガイダンスを開催。「就職」をテーマにした今年は、求人票の見方の説明など、短時間でも全般的な理解がえられる構成。反応は上々だという。

静岡県立稲取高校

http://www.shizuoka-c.ed.jp/inatori-h/
生徒数 / 345人(男子191人、女子154人) 普通科 9学級
進路状況(2005年度) / 大短進学16.2%、専各進学40.9%、
就職40.9%、その他2.0%

説明会満足度調査(テーマ:就職)



「講師の選定は、研修会の質を左右する肝心な要素。毎回気を使います(谷野先生)。参加においては担任と新採用の先生のみ義務化。その他は自由参加にしたところ、出席率の低さが課題として残った。

目的3: 担任・担当間の実践レベル維持

CASE 9 [取り組みを文書で引き継ぐ]

行事の運営マニュアルなどを 自由に閲覧・加工する

先進的なIT環境が整う同校では、校内LANのサーバに、担任の業務記録や進路行事の運営記録など、過去の学校運営に関わる様々な文書が保存されている。自由に閲覧でき、必要な場合は加工して再利用も可能。「業務を引き継ぐ際は、文書を見た上で不明点だけを前任者に確認します。異動が多い公立高校では、こうした仕組みはとても効率的です(吉田聡先生)。

北海道釧路北高校

http://www.kushirokita.hokkaido-c.ed.jp/
生徒数 / 471人(男子187人、女子284人) 普通科 12学級
進路状況(2005年度) / 大短進学30.5%、専各進学31.7%、
就職31.7%、その他6.1%

引き継ぎ文書

担任の年間業務一覧も保存されている。初めて担任をもつ教員はこれを活用する。インターンシップでは例年約50社に受け入れを依頼。実績のある企業の代表取締役や担当者の名前も記録に残る。

CASE 10 [インターンシップ実施における企業対応マニュアル]

蓄えたノウハウを生かし 分担後も均質な対応

06年度からインターンシップが必修となった同校。機械科では、希望者対象だった昨年まで教員1名で行っていた企業への対応を12人で分担することに。そこで文書発送や指導のタスキングについてマニュアルを作成した。結果無事に終了し、生徒の感想も肯定的だった。「複数の担当者がいても均質に対応できたことは評価できます」(進路指導部・田中淳先生)

福岡県立香椎工業高校

<http://kashii-tech.fku.ed.jp/>
生徒数 / 811人(男子767人、女子44人)
電気科・機械科・工業化学科・情報技術科・電子機械科 21学級
進路状況(2005年度) / 大短進学7.9%、専各進学18.8%、就職67.0%、その他6.3%

企業対応マニュアル

以下の6ステップでやるべきことが簡潔にまとめられている。

1. 企業への文書発送
2. 生徒への事前指導
3. 生徒への事前指導
4. 手みやげについて
5. 企業アンケート
6. インターンシップ終了後

生徒の希望を聞いて受け入れ先を探すのは担任。それ以降の企業とのやりとりや、生徒の管理が新しい担当者の仕事。分担する生徒は1人5~6人。受入初日と最終日は生徒に同行して挨拶回りも行った。

CASE 11 [教員24人体制の「総合」]

問題点や実施内容を 週1回すり合わせ、密度を上げる

書く力や発表する力の育成を目標に掲げ、主体的な進路・生き方探しをすすめる『総合』。授業は12~13名の少人数で行う。指導に当たる学年会とプロジェクトチームはそれぞれ週1回会議を開き、反省に基づいて教案を練り上げる。「担当者が24人と多く、プロジェクト組織が必要。チームが次年度にもノウハウを引き継ぎます」(教頭・文田明良先生)

京都・私立立命館高校

<http://www.ritsumei.ac.jp/fkco/>
生徒数 / 1030人(男子574人、女子456人) 普通科 27学級
進路状況(2005年度) / 大短進学95.1%、専各進学0.9%、就職00.0%、その他4.0%

組織図

プロジェクトチーム(5人)
(内4人は授業も担当)

担当教員
(学年会を中心に、延24人、実18人)

プログラムを作るプロジェクトチーム、指導する学年会の双方が、毎週1回会議を開き、課題や問題点を話し合う。組織間の情報交換を大切にする。チームを留任する教員が培ったノウハウを次の学年にも活かす。

CASE 12 [科目選択指導に関する研修]

実践的な研修により 時間割作りなど指導方法を学ぶ

科目選択の機会が多く、担任にかかる進路指導の負担が大きい総合学科。同校では5年前に設立された総合企画部が、「総合的な学習」の企画と併行して、総合学科ならではの時間割作成の指導ノウハウを蓄積してきた。毎年8月には、科目選択の指導のための研修会を実施。「チームに分かれて時間割を作るなど、実践的な内容が好評でした」(総合企画部・山崎浩一先生)

長崎県立長崎明誠高校

<http://www1.biz.biglobe.ne.jp/meisei/>
生徒数 / 700人(男子302人、女子398人) 総合学科 18学級
進路状況(2005年度) / 大短進学26.3%、専各進学49.0%、就職23.3%、その他1.4%

科目選択のスケジュール

職員研修

- 第一回調査
- 個別指導開始
- 第二回調査
- 履修届提出

研修会では少人数のチームに分かれ、総合企画部の教員数名が指導を行った。新任の教員のために、毎年総合学科の概要を説く研修会も開催している。